



2021年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月6日
上場取引所 東

上場会社名 イオンモール株式会社
 コード番号 8905 URL <https://www.aeonmall.com/ir/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩村 康次
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 岡本 正彦 TEL 043-212-6733
 四半期報告書提出予定日 2020年10月14日 配当支払開始予定日 2020年10月23日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|---------|-------|--------|-------|--------|-------|----------------------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2021年2月期第2四半期 | 126,050 | △21.7 | 11,760 | △59.7 | 8,983 | △64.3 | △10,865 | — |
| 2020年2月期第2四半期 | 161,070 | 4.2 | 29,212 | 18.3 | 25,157 | 5.3 | 17,043 | 9.0 |

(注) 包括利益 2021年2月期第2四半期 △16,557百万円 (—%) 2020年2月期第2四半期 11,895百万円 (141.1%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年2月期第2四半期 | △47.75 | — |
| 2020年2月期第2四半期 | 74.91 | 74.90 |

(注) 当第2四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-----------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2021年2月期第2四半期 | 1,318,485 | 383,372 | 28.3 |
| 2020年2月期 | 1,381,217 | 404,522 | 28.5 |

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 373,579百万円 2020年2月期 393,849百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2020年2月期 | — | 20.00 | — | 20.00 | 40.00 |
| 2021年2月期 | — | 20.00 | — | — | — |
| 2021年2月期（予想） | — | — | — | 20.00 | 40.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|-------|--------|-------|--------|-------|---------------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 280,000 | △13.6 | 30,000 | △50.7 | 22,000 | △60.8 | △4,000 | — | △17.58 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2021年2月期2Q | 227,538,039株 | 2020年2月期 | 227,515,009株 |
| ② 期末自己株式数 | 2021年2月期2Q | 3,000株 | 2020年2月期 | 2,697株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2021年2月期2Q | 227,529,209株 | 2020年2月期2Q | 227,492,638株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

当社は2020年10月7日に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料につきましては、同年10月6日にホームページに掲載し、説明内容（音声）については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 6 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 6 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 7 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 9 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 10 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 11 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 12 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 12 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 12 |
| (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) | 12 |
| (追加情報) | 12 |
| (セグメント情報等) | 13 |
| (重要な後発事象) | 14 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

a. 連結経営成績に関する説明

当社は、経営理念の実現とさらなる事業成長を遂げるため、長期ビジョンである2026年2月期（2025年度）にめざす姿を定め、社会価値・環境価値・経済価値の創出を通して、地域社会とともに持続的な成長の実現に向けて取り組んでいます。

2021年2月期（2020年度）を初年度とする中期経営計画（2020～2022年度）では、「海外における高い利益成長の実現」「国内における安定的成長の実現」「成長を支えるファイナンスミックスとガバナンス体制構築」「ESG経営の推進」を成長施策として掲げています。

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大により、国内外のモールにおいて営業時間の短縮や臨時休業を実施しましたが、営業再開後は、お客さま・専門店スタッフを含めたモール従業員の安全を最優先するという大前提のもと、感染拡大防止と安全・安心のための対策を実施しながら、ウィズコロナ・アフターコロナの新常態（ニューノーマル）における消費行動の変容に対応したモールの管理・運営の構築に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、営業収益が1,260億5千万円（対前年同期比78.3%）、営業利益は117億6千万円（同40.3%）、経常利益は89億8千3百万円（同35.7%）、親会社株主に帰属する四半期純損失は108億6千5百万円（前第2四半期連結累計期間は170億4千3百万円の利益）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における一時休業期間中の固定費等は、新型コロナウイルス感染症による損失として164億7千5百万円を特別損失に計上しました。

◆連結経営成績

(単位：百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 増減 (対前年同期比) |
|---------------------------------|------------------|------------------|--------------------|
| 営業収益 | 161,070 | 126,050 | △35,020 (78.3%) |
| 営業利益 | 29,212 | 11,760 | △17,452 (40.3%) |
| 経常利益 | 25,157 | 8,983 | △16,174 (35.7%) |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 17,043 | △10,865 | △27,908 (-) |

b. セグメント別事業概況に関する説明

◆セグメント別経営成績

(単位：百万円)

| | 営業収益 | | | セグメント利益又は損失(△) | | |
|------|------------------|------------------|--------------------|------------------|------------------|--------------------|
| | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 増減 (対前年同期比) | 前第2四半期 連結累計期間 | 当第2四半期 連結累計期間 | 増減 (対前年同期比) |
| 日本 | 136,911 | 107,414 | △29,496 (78.5%) | 24,847 | 11,115 | △13,731 (44.7%) |
| 中国 | 17,801 | 12,721 | △5,080 (71.5%) | 3,006 | △491 | △3,498 (-) |
| アセアン | 6,357 | 5,914 | △443 (93.0%) | 1,346 | 1,123 | △222 (83.5%) |
| 海外 | 24,159 | 18,635 | △5,523 (77.1%) | 4,352 | 632 | △3,720 (14.5%) |
| 調整額 | - | - | - (-) | 12 | 12 | - (100.0%) |
| 合計 | 161,070 | 126,050 | △35,020 (78.3%) | 29,212 | 11,760 | △17,452 (40.3%) |

①海外

営業収益は186億3千5百万円(対前年同期比77.1%)、営業利益は6億3千2百万円(同14.5%)となりました。中国・アセアン各国における消費は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一時的に落ち込みましたが、営業再開後は、出店国、出店エリアごとに進捗に差はあるものの回復基調にあり、引き続き高い成長の実現をめざしていきます。また、2025年における海外70モール体制の実現に向けて、中国・アセアンとも高い成長力が見込まれるエリアにおいて、新規物件の探索・確保を進めています。

なお、海外現地法人の決算期は12月末のため、当第2四半期連結累計期間の業績は1月～6月となります。

(中国)

営業収益は127億2千1百万円(対前年同期比71.5%)、営業損失は4億9千1百万円(前第2四半期連結累計期間は30億6百万円の営業利益)となりました。

中国では、北京・天津・山東、江蘇・浙江、湖北、広東の4エリアを中心にドミナント出店を進めています。当社モールのブランド力向上により集客力が高まることで、優良専門店の誘致や、より有利なリーシング条件での契約が可能となる等、ブランディングメリットの享受が進んでいます。また、当社モールでは、日本で培った管理・運営ノウハウを活かし、消費を喚起するセールやイベントの開催による集客力の向上や、日本のモール環境と同等のクリンリネス(清潔、安全、快適な状態)の徹底および計画的な専門店入替を中心としたリニューアルを実施しています。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の中国全土への感染拡大に伴い、1月から2月中旬にかけて、中国で展開する全21モール中、最大11モールを臨時休業しました。段階的に営業を再開し、4月1日には全21モールの専門店営業を再開しました。安全・安心を第一に、当社モール主導でライブコマースのプラットフォームを立ち上げ、専門店におけるライブコマースの実施や飲食専門店に対するデリバリーキャンペーンの実施、大型平面駐車場を活用した夜市開催等、消費行動の変容や政府による景気刺激策に対応した施策を推し進めています。

また、6月にイオンモール武漢金橋(湖北省武漢市)において食物販ゾーンのリニューアル、7月にイオンモール武漢金銀潭(湖北省武漢市)において、本棟4階の駐車場を店舗化する増床リニューアルを実施しました。イオンモール武漢金銀潭の増床リニューアルでは、世界各国の飲食専門店を集結させたレストラン街に加え、フードコートとアミューズメントを新設する等、48店舗を導入するとともに、既存エリアのゾーニングも見直し、食物販、生活雑貨、コスメ、ペット等のライフスタイルを提案する専門店を導入しました。さらに8月から順次、天津エリア4モール(イオンモール天津TEDA、イオンモール天津中北、イオンモール天津梅江、イオンモール天津津南)において、最新トレンドの専門店導入を進め、計119店舗を刷新するリニューアルを実施しています。政府指示により休業を継続していたシネマについても、7月20日より順次営業を再開し、8月初旬には全モールで営業を再開しました。

これらの取り組みにより、当第2四半期連結累計期間の中国既存19モールの専門店売上は、4月のモール営業再開以降、順調に回復基調となり、8月度は99.6%とほぼ前期並みまで回復しています。

(アセアン)

営業収益は59億1千4百万円（対前年同期比93.0%）、営業利益は11億2千3百万円（同83.5%）となりました。

ベトナムでは、政府の規制により3月28日から4モールの専門店営業を臨時休業しましたが、4月24日に全5モールでの営業を再開しました。同国では厳格なウイルス封じ込め対策により客足の戻りが早く、既存4モールの専門店売上は、7月度は前年を上回る水準まで回復しました。8月度は、7月下旬に新型コロナウイルス感染者が拡大したことから一時的に各モールの来店客数、売上は落ち込みましたが、9月に入り専門店売上は前年を上回る水準に回復しています。

カンボジアでは、既存2モールの営業時間を短縮していましたが、6月に通常の営業時間に戻し、8月には休業していたシネマも営業再開となり、既存2モールの専門店売上は前期並みまで回復しています。

インドネシアでは、政府による大規模社会制限の実施に伴い、3月31日から既存2モールの専門店営業を臨時休業しましたが、6月15日に営業を再開しました。しかし、インドネシア国内では、依然として新型コロナウイルス感染者は増加し続け、大規模社会制限が継続されており、既存2モールは来店客数が前年比で半減という厳しい状況ですが、地元企業と連携したフードデリバリー割引キャンペーンを実施する等、売上確保に努めています。

当連結会計年度において、新規モールにつきましては、ベトナム1モール、インドネシア1モールの計2モールのオープンを計画しています。また、新たな出店国として、ミャンマーのヤンゴン郊外（ヤンゴン管区ダゴンセイカンタウンシップ）に、2023年に1号店出店を計画しています。当社とミャンマー最大の不動産ディベロッパーであるSHWETAUNG（シュエタン） REAL ESTATE CO., LTD. と合弁会社を設立し、今後、合弁会社がミャンマーにおける多店舗展開に向けた物件開発を推し進めていきます。イオングループでは、ミャンマーにおける学校建設支援事業や植樹活動等の社会貢献活動を実施し、交流を深めてまいりましたが、モール事業を通して新たなライフスタイルの提案、経済活性化に寄与してまいります。

<第3四半期連結会計期間以降の海外新規モール>

| | 名称 | 所在 | オープン | 専門店数 | 総賃貸面積 |
|--------|------------------|--------|--------|------|---------|
| ベトナム | イオンモール ハイフォンレチャン | ハイフォン市 | 2020年度 | 200 | 74,000㎡ |
| インドネシア | イオンモール セントウルシティ | 西ジャワ地区 | 2020年度 | 250 | 71,000㎡ |

(注) 1. オープン年度は日本の会計年度で記載。海外現地法人の決算期は12月末。

2. イオンモール タンジュンバラット（インドネシア南ジャカルタ区）は、建築工事スケジュールの変更に伴い、オープン予定時期を2021年度に変更しました。

②日本

営業収益は1,074億1千4百万円（対前年同期比78.5%）、営業利益は111億1千5百万円（同44.7%）となりました。

国内では、4月7日に緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月8日から当社グループが管理・運営するモールの専門店および都市型ショッピングセンターを段階的に臨時休業し、4月18日からは全国165施設全てを臨時休業しました。その後、緊急事態宣言の段階的解除を受け、5月13日より順次営業を再開し、5月28日には全施設の営業を再開しました。

営業再開にあたって、出入口へのAIによる検温器設置、売場・後方における飛沫感染防止対策としてのアクリル板やビニールカーテンの設置、来店客管理システムのデータに基づく入館制限基準の策定、外気取り込み量増加によるモール館内の換気機能強化等、感染拡大防止と安全・安心のための対策を実施しています。

新しい生活様式に合致したエンターテインメントの提供を目的とし、車外へ出ることなく映画鑑賞をいただけるイベントとして、全国約70カ所のイオンモール屋外駐車場で、ドライブインシアターやドライブインパブリックビューイングを開催しました。また、ユーザビリティを向上し、よりストレスフリーなショッピング環境の提供を目的として、イオンモールアプリを全面リニューアルしました。当アプリでは、来店時間のピーク分散やアイドルタイムでの飲食店利用など、お客さまの行動変容にあわせたクーポン発行、ポイント還元などのサービスを提供することで、専門店事業のサポートを実施しています。

当連結会計年度において、新規モールにつきましては、今冬にイオンモール上尾（埼玉県）のオープンを予定しており、既存モールでは2モールの増床、8モールのリニューアルを計画しています。当第2四半期連結累計期間においては、既存7モールのリニューアルに加え、イオンモール高崎（群馬県）の増床リニューアルを実施しました。

イオンモール高崎では、全体の約50%となる106店舗をリニューアルし、増床棟には大型ファストファッションや書籍、家電、ペット用品等のライフスタイル型専門店を新たに導入しました。また、3階フードコートは、お子さま専用の飲食スペースを設けたファミリーゾーンと木目調のシックな内装の大人ゾーンの2つの空間を設け、16店舗の飲食専門店を構成する約1,000席のフードコートに拡大しました。さらに、9月には核店舗のGMSと隣接する1階に、食物販ゾーンとして新たに4店舗を導入しています。

＜当第2四半期連結累計期間におけるリニューアルモール＞

| 名称 | 所在 | リニューアル オープン日 | 専門店数 | リニューアル 専門店数 |
|---------------|------|-----------------|------|----------------|
| イオンモール座間 (注1) | 神奈川県 | 3月6日 | 160 | 1 |
| イオンモール三光 (注1) | 大分県 | 3月7日 | 70 | 1 |
| イオンモール四條畷 | 大阪府 | 3月13日 | 200 | 6 |
| イオンモール川口前川 | 埼玉県 | 3月19日 | 170 | 14 |
| イオンモール日の出 | 東京都 | 3月20日 | 160 | 21 |
| イオンモール東員 | 三重県 | 3月20日 | 155 | 21 |
| イオンモール幕張新都心 | 千葉県 | 4月24日 | 360 | 33 |
| イオンモール高崎 (注2) | 群馬県 | 6月26日 | 210 | 106 |

(注) 1. イオンモール座間、イオンモール三光はシネマ棟の増床。

2. イオンモール高崎は増床リニューアル。専門店数は210店舗 (+40店舗)、総賃貸面積は76,000㎡ (+17,000㎡) に拡大。

緊急事態宣言解除後の当第2四半期連結会計期間(3ヶ月)における国内既存83モールの専門店売上は、前期比83.2%となりました。6月度は特別定額給付金支給およびキャッシュレス還元キャンペーン終了に伴う駆け込み需要等により前期比88.0%となりましたが、7月中旬以降に再び新型コロナウイルス感染症拡大の兆候が見られたことで7月度は前期比83.1%、8月度は前期比78.6%となりました。9月度(速報)は前年が消費税増税前の駆け込み需要があった反動減もあり、前期比80.6%と小幅の回復ですが、新型コロナウイルス感染者数減少に伴い、飲食、アミューズメント、シネマは大幅に改善しております。

＜第3四半期連結会計期間以降の国内新規モール＞

| 名称 | 所在 | オープン | 専門店数 | 総賃貸面積 |
|----------|-----|--------|------|---------|
| イオンモール上尾 | 埼玉県 | 2020年冬 | 130 | 34,000㎡ |

(注) イオンモール新利府 南館(宮城県)は、建築工事スケジュールの変更に伴い、オープン予定時期を2021年春に変更しました。

当社では、イオングループ制定による防疫対策等の基準「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」に基づき、感染防止対策を前提としたモール館内の環境改善やモールオペレーションの構築、新常态(ニューノーマル)における新たなモールコンセプトやサービス機能の提供等、従来のビジネスモデルからの変革を進めていく好機ととらえ、国内外において、社会変化に対応したモール創りに取り組んでまいります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は、前連結会計年度末と比較して627億3千2百万円減少し、1兆3,184億8千5百万円となりました。これは、現金及び預金が105億2千2百万円、既存店の活性化や将来の開発用地の先行取得等により有形固定資産が156億8千7百万円増加した一方で、関係会社預け金（流動資産「その他」を含む。）が514億円、固定資産が減価償却により289億5千9百万円減少したこと等によるものです。

(負債)

負債は、前連結会計年度末と比較して415億8千2百万円減少し、9,351億1千2百万円となりました。これは、社債（「1年内償還予定の社債」を含む。）が150億円増加した一方で、専門店預り金が194億3千2百万円、設備に関する未払金等（流動負債「その他」を含む。）が155億8千万円、未払法人税等が106億6千万円、リース債務（流動負債の「リース債務」を含む。）が83億2千6百万円、未払消費税等（流動負債「その他」を含む。）が45億1千8百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較して211億4千9百万円減少し、3,833億7千2百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失108億6千5百万円の計上や配当金45億5千万円の支払い等による利益剰余金の減少、為替換算調整勘定が50億8百万円減少したこと等によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して399億8千6百万円減少し、743億8千2百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況等については、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果減少した資金は、123億1百万円（前第2四半期連結累計期間は955億8千2百万円の増加）となりました。主な要因は、減価償却費が289億5千9百万円（同283億7千3百万円）となる一方で、税金等調整前四半期純損失が116億3千万円（同税金等調整前四半期純利益255億2千4百万円）、専門店預り金の減少額が193億2千4百万円（同461億7千8百万円の増加）、法人税等の支払額が108億5千9百万円（同76億4千7百万円）となったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、344億1千4百万円（同630億4千9百万円）となりました。主な要因は、前連結会計年度にオープンしたイオン藤井寺ショッピングセンター（大阪府）や、増床を実施したイオンモール高岡（富山県）等の設備代金の支払、当第2四半期連結累計期間における開発用地の先行取得等により有形固定資産の取得による支出が323億6千9百万円（同602億5千3百万円）生じたこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、85億3千4百万円（同442億8千4百万円）となりました。主な要因は、社債の発行による収入が300億円（同800億円）、長期借入れによる収入が80億円（同25億円）となる一方で、社債の償還による支出が150億円（同150億円）、リース債務の返済による支出が53億5千6百万円（同55億1百万円）、配当金の支払額が45億5千万円（同43億2千1百万円）、長期借入金の返済による支出が43億3千万円（同69億5千9百万円）となったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期第2四半期の連結業績予想につきましては、当初業績見込みを上回りましたが、通期の連結業績予想につきましては、2020年7月7日に公表しました業績予想に変更はありません。

なお、詳細につきましては、2020年9月30日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2020年2月29日) | 当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 58,283 | 68,805 |
| 営業未収入金 | 7,755 | 7,618 |
| その他 | 103,382 | 53,465 |
| 貸倒引当金 | △66 | △84 |
| 流動資産合計 | 169,354 | 129,805 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 630,602 | 613,487 |
| 土地 | 305,383 | 306,034 |
| 使用権資産(純額) | 123,798 | 114,420 |
| その他(純額) | 31,670 | 35,578 |
| 有形固定資産合計 | 1,091,455 | 1,069,521 |
| 無形固定資産 | 3,807 | 3,707 |
| 投資その他の資産 | | |
| 差入保証金 | 49,919 | 51,104 |
| その他 | 66,694 | 64,360 |
| 貸倒引当金 | △13 | △13 |
| 投資その他の資産合計 | 116,600 | 115,451 |
| 固定資産合計 | 1,211,863 | 1,188,680 |
| 資産合計 | 1,381,217 | 1,318,485 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2020年2月29日) | 当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 営業未払金 | 8,530 | 10,422 |
| 1年内償還予定の社債 | 15,000 | 15,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 35,774 | 48,124 |
| リース債務 | 12,107 | 13,070 |
| 未払法人税等 | 11,388 | 727 |
| 専門店預り金 | 65,426 | 45,993 |
| 賞与引当金 | 1,661 | 978 |
| 役員業績報酬引当金 | 114 | 48 |
| 店舗閉鎖損失引当金 | 572 | 572 |
| その他 | 61,341 | 39,772 |
| 流動負債合計 | 211,916 | 174,710 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 300,000 | 315,000 |
| 長期借入金 | 199,322 | 189,630 |
| リース債務 | 103,872 | 94,582 |
| 退職給付に係る負債 | 1,278 | 1,148 |
| 資産除去債務 | 16,575 | 16,674 |
| 長期預り保証金 | 140,375 | 139,767 |
| その他 | 3,355 | 3,598 |
| 固定負債合計 | 764,779 | 760,402 |
| 負債合計 | 976,695 | 935,112 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 42,347 | 42,364 |
| 資本剰余金 | 40,666 | 40,683 |
| 利益剰余金 | 318,755 | 303,339 |
| 自己株式 | △5 | △5 |
| 株主資本合計 | 401,765 | 386,382 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 920 | 988 |
| 為替換算調整勘定 | △7,832 | △12,841 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △1,003 | △949 |
| その他の包括利益累計額合計 | △7,916 | △12,802 |
| 新株予約権 | 47 | 39 |
| 非支配株主持分 | 10,625 | 9,753 |
| 純資産合計 | 404,522 | 383,372 |
| 負債純資産合計 | 1,381,217 | 1,318,485 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日) |
|---------------------------------------|---|---|
| 営業収益 | 161,070 | 126,050 |
| 営業原価 | 117,618 | 100,964 |
| 営業総利益 | 43,451 | 25,086 |
| 販売費及び一般管理費 | 14,238 | 13,325 |
| 営業利益 | 29,212 | 11,760 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 439 | 607 |
| 受取退店違約金 | 781 | 838 |
| 為替差益 | 269 | 377 |
| 補助金収入 | 85 | 304 |
| その他 | 511 | 235 |
| 営業外収益合計 | 2,088 | 2,363 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,978 | 4,728 |
| デリバティブ評価損 | 213 | 11 |
| その他 | 951 | 400 |
| 営業外費用合計 | 6,143 | 5,140 |
| 経常利益 | 25,157 | 8,983 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 2 | 1 |
| 投資有価証券売却益 | — | 5 |
| 補助金収入 | — | 83 |
| 負ののれん発生益 | 1,239 | — |
| 段階取得に係る差益 | 706 | — |
| 特別利益合計 | 1,948 | 90 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 |
| 固定資産除却損 | 665 | 238 |
| 減損損失 | 904 | 3,545 |
| 新型コロナウイルス感染症による損失 | — | 16,475 |
| その他 | 11 | 444 |
| 特別損失合計 | 1,582 | 20,704 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | 25,524 | △11,630 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 8,114 | 597 |
| 法人税等調整額 | 211 | △1,192 |
| 法人税等合計 | 8,325 | △595 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 17,198 | △11,034 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | 155 | △168 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | 17,043 | △10,865 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日) |
|-------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 17,198 | △11,034 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △110 | 68 |
| 為替換算調整勘定 | △5,254 | △5,645 |
| 退職給付に係る調整額 | 61 | 54 |
| その他の包括利益合計 | △5,303 | △5,523 |
| 四半期包括利益 | 11,895 | △16,557 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 12,263 | △15,752 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △368 | △805 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日) |
|-------------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | 25,524 | △11,630 |
| 減価償却費 | 28,373 | 28,959 |
| 減損損失 | 904 | 3,545 |
| 負ののれん発生益 | △1,239 | — |
| 段階取得に係る差損益(△は益) | △706 | — |
| 店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少) | △40 | — |
| 受取利息及び受取配当金 | △473 | △626 |
| 支払利息 | 4,978 | 4,728 |
| 営業未収入金の増減額(△は増加) | △657 | △69 |
| 営業未払金の増減額(△は減少) | 1,975 | 1,938 |
| 専門店預り金の増減額(△は減少) | 46,178 | △19,324 |
| その他 | 2,978 | △4,887 |
| 小計 | 107,796 | 2,634 |
| 利息及び配当金の受取額 | 383 | 633 |
| 利息の支払額 | △4,950 | △4,708 |
| 法人税等の支払額 | △7,647 | △10,859 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 95,582 | △12,301 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △60,253 | △32,369 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 30 | 5 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | △1,229 | — |
| 差入保証金の差入による支出 | △456 | △1,380 |
| 差入保証金の回収による収入 | 1,051 | 155 |
| 預り保証金の返還による支出 | △4,666 | △4,050 |
| 預り保証金の受入による収入 | 5,863 | 3,797 |
| その他の支出 | △4,395 | △2,976 |
| その他の収入 | 1,006 | 2,404 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △63,049 | △34,414 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少) | △6,000 | — |
| リース債務の返済による支出 | △5,501 | △5,356 |
| 長期借入れによる収入 | 2,500 | 8,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △6,959 | △4,330 |
| 社債の発行による収入 | 80,000 | 30,000 |
| 社債の償還による支出 | △15,000 | △15,000 |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | △0 |
| 配当金の支払額 | △4,321 | △4,550 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △6 | △66 |
| その他 | △425 | △162 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 44,284 | 8,534 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △1,773 | △1,805 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 75,044 | △39,986 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 55,414 | 114,368 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 130,458 | 74,382 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループでは、固定資産の減損会計等の会計上の見積りにおいて、財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、新型コロナウイルス感染症による営業収益等への影響は、感染拡大のピークは過ぎたものの、2021年2月期末まで縮小しながらも継続すると仮定しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

| | 日本 | 中国 | アセアン | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2 |
|--------------------|---------|--------|-------|---------|--------------|----------------------------|
| 営業収益 | | | | | | |
| 外部顧客に対する営業収益 | 136,911 | 17,801 | 6,357 | 161,070 | — | 161,070 |
| セグメント間の内部営業収益又は振替高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 136,911 | 17,801 | 6,357 | 161,070 | — | 161,070 |
| セグメント利益 (注) 3 | 24,847 | 3,006 | 1,346 | 29,200 | 12 | 29,212 |

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の調整であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間において中国のセグメント利益が2,377百万円、アセアンのセグメント利益が238百万円増加しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、収益性が著しく低下した資産グループについて、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の当第2四半期連結累計期間における計上額は904百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「日本」セグメントにおいて、株式会社横浜インポートマートの子会社化に伴い、当第2四半期連結累計期間において、負ののれん発生益を1,239百万円計上しております。

II. 当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

| | 日本 | 中国 | アセアン | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2 |
|--------------------|---------|--------|-------|---------|--------------|----------------------------|
| 営業収益 | | | | | | |
| 外部顧客に対する営業収益 | 107,414 | 12,721 | 5,914 | 126,050 | — | 126,050 |
| セグメント間の内部営業収益又は振替高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 107,414 | 12,721 | 5,914 | 126,050 | — | 126,050 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 11,115 | △491 | 1,123 | 11,747 | 12 | 11,760 |

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の調整であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、収益性が著しく低下した資産グループ及び回収可能性が認められなくなった資産グループについて、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の当第2四半期連結累計期間における計上額は3,545百万円であります。

なお、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な後発事象)

当社は、2020年8月18日開催の取締役会決議に基づき、2020年9月24日に第25回・第26回無担保社債を発行しております。その概要は次のとおりです。

| | |
|-------------|---|
| 社債の名称 | イオンモール株式会社第25回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（サステナビリティボンド） |
| 社債の総額 | 金20,000百万円 |
| 各社債の金額 | 100百万円 |
| 利率（%） | 0.220% |
| 発行価格 | 各社債の金額100円につき金100円 |
| 発行日 | 2020年9月24日 |
| 償還の方法及び償還期限 | 2025年9月24日に一括償還 |
| 担保の内容 | 本社債には担保及び保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はありません。 |
| 資金の使途 | 新型コロナウイルス感染症対策、東日本大震災復興支援、海外モール建設及び国内モール建設の各資金に充当する方針であります。 |

| | |
|-------------|---|
| 社債の名称 | イオンモール株式会社第26回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（サステナビリティボンド） |
| 社債の総額 | 金10,000百万円 |
| 各社債の金額 | 100百万円 |
| 利率（%） | 0.470% |
| 発行価格 | 各社債の金額100円につき金100円 |
| 発行日 | 2020年9月24日 |
| 償還の方法及び償還期限 | 2027年9月24日に一括償還 |
| 担保の内容 | 本社債には担保及び保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はありません。 |
| 資金の使途 | 新型コロナウイルス感染症対策、東日本大震災復興支援、海外モール建設及び国内モール建設の各資金に充当する方針であります。 |